

会 議 録

会議の名称	令和5年度茨木市青少年問題協議会
開催日時	令和6年1月30日（火） 午後5時00分 開会 午後5時48分 閉会
開催場所	オンライン会議ツール「Zoom」、 上中条青少年センター 3階 会議室
会 長	福岡 洋一（茨木市長）
出席者	岡田 祐一 福丸 孝之 青木 順子 三川 俊樹（部会長） 福井 斉 廣瀬 憲吾 石田 陽子 田村 枝和子 辻本 恭治 采女 桂子 明瀬 秀憲 藤森 潔文 【計12人】
欠席者	山田 眞弘 内田 正俊 梅花 ゆかり 福元 康行 平松 克一 浦野祐美子 澤井 啓祐（オブザーバー） 【計7人】
事務局職員	小田教育総務部長 吉崎社会教育振興課長 村上社会教育振興課参事 稲角社会教育振興課指導育成係長 三好社会教育振興課主査 【計5人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 専門部会からの付託事項報告 ・青少年健全育成のための重点目標と取組状況 ・ほっとけん！アワードの決定 ・青少年健全育成重点目標リーフレットの更新 (2) 青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【 開 会 】【 委 員 紹 介 】
福岡会長	【 あいさつ 】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を福岡会長に交代。
福岡会長	案件（１）「専門部会からの付託事項報告」について、部会長より説明を求める。
三川部会長	<p>今年度は専門部会を２回開催し、昨年度からの付託事項「青少年健全育成のための重点目標と取組状況」、「青少年健全育成重点目標リーフレットの更新」、「ほっとけん！アワードの決定」について検討した。</p> <p>資料１「令和５年度 茨木市青少年育成のための重点目標と取組状況（案）」にもとづき、ポイントを絞って報告する。</p> <p>青少年問題協議会では、関係団体や組織の委員が集まり、青少年の健全育成に関する総合的な施策の審議を行っている。</p> <p>本協議会ではこれまでに定めた重点目標である「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で当目標を意識して取り組んでいただくために、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただいている。</p> <p>また、コロナ禍を受けて地域で青少年健全育成の活動を模索している状況にある中で、専門部会では、重点目標を継続するか、または更新するかについて検討し、現行の重点目標を継続したほうがよいとの結果にまとまった。引き続き現行の重点目標に沿った取組を地域にお願いし、青少年の健全育成を推進することを呼びかけていきたいと考えている。</p> <p>２ページ以降に、こどもの発するSOSのサインの種類、大人の接し方や心がけ、青少年のインターネット利用時間の増加、SNSに起因する事案の被害児童数の推移等を示し、大人の見守りの必要性を促している。</p> <p>７ページから９ページにかけては、重点目標の取組状況の指標となる自己点検アンケートの趣旨や目的、令和４年度の行事計画時から行事实施後の２回のアンケート結果と、令和５年度の行事計画時のアンケート結果を示している。</p> <p>コロナ禍では、青少年育成活動の実施に苦慮したり、地域で協力が得られにくいなど、取組を計画通り実施できないことがあり、以前の自己点検アンケートでは、重点目標に沿って取組をできたかどうかや青少年との関わりなどの項目において、計画時より実施後の方が数値が低くなる傾向にあっ</p>

	<p>た。</p> <p>一方で、令和4年度においては、同じくコロナ禍ではあったが、実施後の数値が計画時と同等となる傾向となった。ここから地域では青少年との関わりを計画通りに進めながら、コロナ禍であっても青少年の自主性を引き出すような工夫をし、行事を企画・運営できたことが伺える。</p> <p>また、計画時においては、地域行事に青少年の積極的な参加を促し、コロナ禍で落ち込んだ青少年と地域・学校・家庭等とのつながりの回復に期待していることが伺える。</p> <p>続いて、コロナ禍での各青少年健全育成団体の活動状況について、事務局より説明する。</p>
事務局	<p>10 ページでは、コロナ禍での青少年健全育成団体の活動状況を把握するため、青少年健全育成事業補助金交付対象団体の事業計画書から、コロナ前の令和元年度とそれ以降の年度の行事計画数を比較している。</p> <p>令和5年度の行事計画数は、コロナ前の令和元年度と比べ約22%減少、コロナ禍の令和2年度と比べ約24%増加、令和3年度と比べ約27%増加、行事の再開傾向にあった令和4年度と比較し約6%増加している。</p> <p>また、屋内・屋外ともに、令和5年度は行事の計画数が増加している。</p> <p>11 ページでは、令和5年度に計画している行事を種目別にまとめている。屋外スポーツ、フェスティバル、レクリエーションなどの屋外行事や、交流会などの屋内行事も含め、幅広く行事を計画されていることが分かる。</p>
三川部会長	<p>12 ページからは、「ほっとけん！アワード」を審査基準とともに紹介している。17 ページ以降は、青少年健全育成団体の令和4年度の行事実施結果と令和5年度の行事計画・実施状況、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割等を時点修正している。当冊子は3月に発行予定である。</p> <p>続いて、重点目標啓発リーフレットについて、事務局より説明する。</p>
事務局	<p>手元の青少年健全育成重点目標リーフレットは、青少年健全育成の啓発のため、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成の関係者に配布している。年度の更新にあたり、背景やタイトルの色合いについて変更するほか、記載されている年度や写真の時点修正を加える。また、リーフレットには重点目標の標記も含め、漢字を含めた「子ども」という表記がいくつかあるが、ひらがな表記の「こども」に改める。なお、機関の名称や固有名詞は除くものとする。</p>
三川部会長	<p>専門部会では、これまでより委員及び関係機関から情報提供を受けているが、当ネットワークを生かして、安全安心な青少年健全育成活動を提案・発信する等、時代に応じて多様化する青少年の問題に取り組んでいく。</p>

福岡会長	ただいまの説明について、質問や意見等があれば、発言を求める。
福丸委員	重点目標について異論はないが、こどもたちを取り巻く環境は多様化しており、不登校の問題が気にかかる。外に出てきてくれるこどもたちは学校や地域で大人たちがSOSに気づいて声をかけることができるが、不登校のこどもたちには居場所をしっかりと作っていかねばいけない。中学生はユースプラザを利用できるが小学生は利用できない。市として不登校が増えてきていることに対してどう手を差し伸べるのか。専門部会で議論があったのか。
三川部会長	専門部会では具体的な議論は行っていないが、不登校が増えていることについては心を痛めている。意見をもとに次年度に慎重に議論していきたい。声をかけることが難しいこどもたちをどう見守るかという点で貴重なご意見をいただいた。事務局からはどうか。
事務局	専門部会で「ほっとけん！アワード」の審査を行っており、その中で取り上げているが、西陵中学校で放課後カフェが行われ、学校に通いづらいこどもたちにも配慮していると聞いている。地域でも先進的な取組をされているため、そういった好事例を積極的に発信し、横展開を図っていけたらと考える。
福丸委員	西陵中学校の放課後カフェでは不登校の子は参加できていないが、ステップルームに通っている生徒が参加している。他の生徒と一緒に参加するのはしんどいが、手伝いをしたいという申し出もしてくれている。保護者の会も立ち上げ意見交換を行っている。市内には他にも居場所づくりを行っている団体があり、広がっていくようサポートを願う。専門部会でも議論を行っていただきたい。
福岡会長	<p>姿が見えない不登校やひきこもりの子の居場所づくりが必要という意見を頂いた。不登校について、次年度は専門部会でテーマとして設定するかどうかも含め議論いただきたい。</p> <p>それでは、「令和5年度 茨木市青少年育成のための重点目標と取組状況(案)」、「青少年健全育成重点目標リーフレットの更新」について承認することよろしいか。</p> <p>< 異議なし ></p>
福岡会長	次に、「ほっとけん！アワードの決定」について、部会長から専門部会で決定した内容の報告を求める。

<p>三川部会長</p>	<p>当アワードは、各行事で青少年の役割を意識・計画し、自己有用感を高めるための工夫をする等の地域行事を推奨し、表彰することで、青少年団体の活動意欲の向上を図るものである。選出の母体となる各協議会内では、アワードの選考過程でコロナ禍での工夫点や地域に対する働きかけ等の活動内容を互いに共有している。また、アワードの結果の公表により、地域に好事例をフィードバックすることも目的にしている。</p> <p>今年度は、11月27日に開催した第2回専門部会にて、各協議会より選出された5つの行事について、団体の代表者にプレゼンテーションをいただき、出席できない団体の行事は事務局による説明と書類による審査を行った。手元の資料は、採点結果と実際のエントリーシートである。事務局より5つの行事の紹介をする。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度の「ほっとけん！アワード」は、工夫を凝らして実施いただき、各協議会から推薦を受けた5行事の取組を専門部会で共有し、審査した。その概要について資料2をもとに報告する。</p> <p>西小学校区青少年健全育成運動協議会「西小学校区健康オリエンテーリング大会」では、初の行事でゼロベースから企画運営し、児童の意見を取り入れ、準備や運営に小中学生の役割を組み込み、地域の青少年育成組織とも連携して運営した。小学生はポスター作製やポイントでのクイズ問題作成など行事の準備で中心的な役割を果たし、中学生はお年寄りや小学低学年を助けるスタッフ側として参画した。オリエンテーリングは大人も子どもも楽しむことができ、健康も意識した取組を行った。小中学生が高齢者や一般参加の方を手助けし、地域の方の指導したこと以上に、積極的に参加者を助ける役割を果たした。オリエンテーリングのコース設定では警察署や近隣施設と調整し、事前に何度も練り直し近隣への配慮をした。</p> <p>南中学校区青少年健全育成運動協議会「南中学校区フェスタ2022」では、中学生がイベントやステージの企画運営や模擬店の応援に参加し、ステージ司会も中学生が担当した。中学生には地域の運営者と積極的にコミュニケーションを図るよう助言し、地域の方にも中学生に活躍の場を設けてもらうようお願いした。地域とのつながりを深めるため、実行委員会には中学校のみならず、幼稚園・保育所・小学校・高校にも参加してもらい、イベントやステージで多くの園児、児童、生徒が参加した。感染対策で制限をする中、模擬店やステージ発表の工夫により、従来のフェスタに劣らない盛り上がりがあった。</p> <p>天王小学校区こども会育成連絡協議会「天子連カーニバル」では、様々な遊びや工作などを行うが、遊び方はこどもが自由にできるようにし、こどもの自主性を重視した。こどもの意見に合わせ、こどもが自然に遊びの輪に入れるようにした。学生ボランティアも参加し、自由な発想や意見を引き出すことができ、学生と地域との交流にもなった。当日は多くの保護者が参加し、作品作りや遊びへのサポートをいただき、地域の方に支えられている実</p>

	<p>感を得られた。作成したスノードームを公民館の文化展に展示してもらい、地域の方々にこども会活動を知ってもらう取組も行った。</p> <p>春日丘小学校区青少年会育成会「第7回春日丘小学校区青少年会親睦スポーツ大会」では、多くの中学生が参加し、地域の大人の指導のもと、会場の準備、まかないの手伝い、ゲームの進行、会場の後片付けなどに主体的に関わった。実施する内容は中学生の意見を取り入れて決定した。ほとんどの中学生が初めてのニュースポーツに親しむとともに、各々の役割を担ってくれた。このような取り組みがあることで、他の地域行事にも大勢の中学生が手伝いに集まってくれている。青少年指導員、スポーツ指導員、青健協メンバー等、多くの地域の方に、それぞれの立場で運営に協力いただいた。</p> <p>西陵中学校区青少年指導員会「放課後カフェ（レインボーカフェ）」では、初めての取組として開始し、放課後に中学生がひと息ついて、地域の方や先生と交流できる放課後カフェを立ち上げた。通いづらさを抱える生徒も参加できるよう、教室に入りづらい生徒が通うステップルームへ出張カフェを実施するなどの配慮を行った。生徒と大人が関心ごとや流行を話す中で、地域の大人からは、普段の家庭や学校とは違った角度から、生徒にアドバイスや助言をした。始める前には、アレルギーなどの課題があったものの、価値のある試みとして実施した結果、大勢の生徒が参加し、その後も継続して開催している。</p> <p>以上の内容を審査基準に照らし、各協議会や専門部会で審査し、資料2に採点結果をまとめた。その結果、今年度の「ほっとけん！アワード」には、西小学校区青少年健全育成運動協議会「西小学校区健康オリエンテーリング大会」を選出した。当アワードについて、市ホームページへの掲載、また重点目標と取組状況の冊子の配布等を通じて関係団体や市民に周知する。</p>
三川部会長	<p>今年度の「ほっとけん！アワード」の「西小学校区健康オリエンテーリング大会」では、ゼロベースで行事を計画し、児童の意見を取り入れ、準備や運営に児童・中学生の役割を組み込み、地域の青少年育成組織とも連携できたことや、大人もこどもも楽しむことができ、健康も意識した取組にできたことなどが高い評価を得た。</p> <p>次年度の「ほっとけん！アワード」については、引き続き、前年度と新年度の実施済の行事にて実施する。</p>
福岡会長	<p>専門部会においては、引き続き重点目標に沿った本市青少年育成の取組状況を随時把握し、必要に応じて関係機関と連携し、次なる茨木を担う青少年育成のための施策の研究・検討を願う。</p> <p>次に、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。茨木警察署辻本委員から、最近の犯罪の発生状況等について情報提供を求める。</p>
辻本委員	<p>青少年に関する犯罪状況等について説明する。治安情勢については、治安</p>

のバロメーターと呼ばれる刑法犯の認知件数が大阪府下・茨木市内ともに増加している。昨年の認知件数は、大阪府下では約8万件で、前年に比べ約16%増加し、茨木市内では約2千件で、前年に比べ約29%増加となっている。特殊詐欺、自転車盗、車上狙い、置き引きが増えている。犯人の検挙はもちろんだが、被害防止のため防犯教室や各種キャンペーンなどを実施し、抑止対策を図っている。

少年の犯罪情勢については、昨年の検挙・補導数は、大阪府下では2,759名、前年に比べ571名増加、茨木市内では55名、前年に比べ18名増加となっている。コロナが5類に移行し社会で様々な活動が動いたためと分析している。

闇バイトが全国で発生しており、SNSで高額バイト・即日即金などの文言を使い、実行犯を募集している。特殊詐欺についてもSNSが使われ、少年たちが「受け子」「出し子」として犯罪に加担してしまう事例がある。海外に拠点を設けるなど、犯罪手口はより巧妙化している。犯人グループが犯行前に少年の顔写真や個人情報の写真をSNSで送らせ、少年が脱退したいと申し出をすると情報をばらまくと脅し、グループから抜け出せないようになっている事例もあった。

大阪府警では、受け子や出し子を検挙して捜査しているが、昨年237名を検挙し、そのうち少年は33名、約15%であった。

茨木市内においては、小・中・高校を対象に非行防止教室を開催しており、地域の非行情勢や要因だけではなく、闇バイトで犯行グループに加担しないように注意喚起を行っている。今後も引き続き実施していく。

少年の心身に有害な影響を与え少年の福祉を害する福祉犯罪については、時代によって変遷しており、最近では歓楽街を中心にコンセプトカフェが出現している。青少年たちが客として通ってしまい、高額な金銭が必要となりパパ活等を行うことなどが、新たな構図として認められる。大阪府警ではこれらの実態を調査し、積極的に事件として取り扱うことで、青少年の健全育成に努めている。そのほかにも青少年の大麻の乱用や医薬品の大量摂取・オーバードーズ問題にも非常に関心を持っている。何かあれば茨木警察に情報提供を願う。

福岡会長

意見や質問はあるか。

青木委員

大麻やオーバードーズ、ひきこもり・不登校の問題などがあるが、家に居場所がない子どもたちはどこにいるのか。大阪府下ではグリ下での問題がニュースになっている。茨木市内でそういった場所はあるのか。見回りはどういった場所を重点的に実施されているのか。

辻本委員

深夜徘徊など補導活動を行っている。駅周辺、大規模商業施設、公園などが中心となる。茨木市内ではグリ下のように問題となっている場所はない

	が、気になることがあれば情報提供を願う。
青木委員	家に居場所がない子どもが増えている実態が重大と感じる。家にいたくない、いられないのは大人の責任でもある。考えていかなければいけない。
福岡会長	他に意見や質問はあるか。無ければ、本日の議事は終了とする。
事務局	【 青少年健全育成研修会について情報提供 】
岡田副会長	【 あいさつ 】
福岡会長	以上をもって令和5年度茨木市青少年問題協議会を閉会する。